

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190800910		
法人名	株式会社エクセルシオールジャパン		
事業所名	グループホームいきいきの家越谷		
所在地	埼玉県越谷市大字大竹610-3		
自己評価作成日	令和7年11月24日	評価結果市町村受理日	令和7年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2
訪問調査日	令和7年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は三食手作りでご入居者と共に作っております。昼食はその日に皆様で冷蔵庫にある食材で何が作れるか、何を食べたいかを考え話し合ってもらうことで家庭的な環境を作り出せております。それぞれの方にお米担当、野菜皮むきや食器洗い担当など個々の役割を担うことで生きがいや自尊心を向上し、献立を考えることで脳の活性化を図り認知症予防を実践するなど様々な相乗効果が表れております。

ご入居者には極力ご自宅での生活と変わらない、その人らしい生活を過ごせるよう可能な限り本人の希望に沿った環境を提供しております。毎月1回のカメラサークル参加のため公民館へ送迎したり、1階ベランダの窓は施錠せず、敷地内であれば自由に出て畑の水やりや野菜の成長を見守っていただいております。また、定期的に季節のイベントや外食などの行事をおこない楽しんでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●手作りの食事、利用者の意思を尊重した環境形成などグループホームらしい支援が実現しています。特に昼食についてはメニュー決め、食材の買い出しも利用者と一緒にできるよう配慮するなど食事作りの風景に本ホームのグループホームらしさがあらわれています。

●ゆめプランと題し、利用者の行きたかった場所に出掛けるプロジェクトが実施されています。消極的になっている利用者の希望を聞き出し、実現するアセスメント力に敬服に値します。

●保育園・小学校とのあたたかな交流が実現しています。傾聴、演奏など数多くのボランティアが来訪し、利用者の生活に彩りを与えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれの職員が認知症ケアについて理解し、ご入居者に対し家庭的で暖かい環境を作っております。	開設から2年目に入り、安定した運営から手作りの食事、自立を尊重した支援等グループホームらしいケアが実現している。パンフレットはコンパクトながらも多くの情報を掲載したものに改訂している。	正規職員の採用により安定した運営が実現している。経験の浅い職員のため、グループホームの支援について研修を通じて研鑽を図る意向をもっている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園や小学校との交流を図り、歌を歌ってもらったり運動会を一緒にしたりと地域との関わりを持たせてもらっております。	保育園・小学校とのあたたかな交流が実現している。傾聴、演奏など数多くのボランティアが来訪し、利用者の生活に彩りを与えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や運営推進会議を通し、認知症の方との関わり方について話し合っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月1日オープン以降、現在まで2度会議を開きご家族や民生委員や地域包括の方と話し合い、意見交換をしております。次回は1月開催予定です。	家族代表、民生委員、地域包括支援センター、自治会等の方々が来訪し、報告・連絡がなされている。自治会にも加入し、廃品回収などの協力にあたっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	越谷市役所とはオープン前から運営についてやりとりさせていただき色々とアドバイスをいただいております。	行政との連携のほか、グループホームの協議会に参加し、情報収集と共有にあたっている。また、地域の避難訓練に参加するなど積極的な連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの入口は電子キーによる施錠をしております。また、現在は退去されておりますが、1名以前の施設で離設が多かったため夜間のみ玄関の施錠を家族から依頼され実施しておりました。	身体拘束廃止委員会の開催など適正な支援実践のため指導に努めている。また、昼間帯の玄関およびウッドデッキは施錠をしておらず、利用者の自由を尊重した生活を支援している。	常勤職員の採用や職員配置の安定が実現しており、身体拘束廃止委員会のメンバーを固定化する意向をもっている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を3か月毎に実施し虐待のない環境作りを共有しております。また、忙しい業務の中で時折強い口調になってしまう職員がおりますが、都度管理者から口頭注意をおこなっております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修としてマナビタを使用し各職員が毎月ネットを使い動画研修をし学んでおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が十分な説明をおこない、納得されて入居されております。 入居後も毎月施設での生活を手紙でお伝えさせていただいており、ご家族からの疑問には都度回答し納得していただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見は都度職員へ口頭または文章にして情報を共有しております。 外部へは運営推進会議時にいただいたご意見をお伝えしております。	毎月写真入りの通信を家族に送付するほか、ソーシャルネットワーキングサービスの活用もなされている。本評価にともなう家族アンケートにおいても行事・丁寧な支援・面会への支援など賛同の声が多数寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談や会議での場にて意見交流をしております。	ユニット会議や委員会において話し合いがなされている。WEBを活用した研修に加え、集合研修も実施し、支援の統一と理念の実践への取り組みがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表からは現在の運営についてある程度自由にやらせていただいております。 会社全体での発表会などがあり賞をいただけるなどの福利厚生もありますが、何より施設のご入居者と共に毎日を楽しく過ごせる環境を提供していただき感謝しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修には積極的に参加できるよう努めております。今年度は新人研修として3名の職員に参加してもらいました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士でのネットワークでの共有により毎日の報告をしております。 管理者会議を定期的に関きお互いの状況報告をしております。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	始めは皆さん不安になると思われるので、自発的に言葉にしていなくても表情や仕草から不安を感じ取りご本人の安心安全を提供できるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の皆様は不安や疑問を抱いた際には積極的に質問していただいております。その際にはできること、できない事を明確にお伝えし曖昧な答えにならないよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者本人の意向をくみ取り、ご家族と共にできる限りの支援ができるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユマニチュードケアを取り入れ、委員会活動として三カ月毎におこない実践できるよう声掛けしあっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には日常生活の様子をお伝えし、ご家族にも今のご入居者の暮らしを知ってもらえるよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会や、今まで通っていたお店や喫茶店などに職員と共に外出し支援しております。	ゆめプランと題し、利用者の行きたかった場所に出掛けるプロジェクトが実施されている。消極的になっている利用者の希望を聞き出し、実現するアセスメント力に敬服に値する。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士で仲の良くない方々もいますが、職員が間に入り仲裁し、一緒に料理作りやレクリエーションを通して良好な関係作りを支援しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	11月に入院、退去となったご入居者家族とは、退去後も状況報告をいただき必要に応じて支援できるよう努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意向に準じた生活の支援に努めております。	入居時よりアセスメント、プランニング、モニタリングが繰り返され、利用者のADLおよび精神状態の把握がなされている。利用者ごとに書面のファイルとデータにより整理され、いつでも確認できる環境となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を鑑みて今の生活の基盤となれるよう情報の収集に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者の日常生活を常に観察しできることを把握できるよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向及び家族や職員の意見を聴取し無理のない介護計画を立案できるよう努めております。	利用者の穏やかな生活の実現と家族の要望を取り入れた目標設定によりケアプランが策定されている。利用者の趣味に対しても継続できるよう尽力しており、意向の反映に尽力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を電子カルテを用いて管理し、すぐに共有できるよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを基準にせず、本人がしたいことに注目し対応できるよう努めております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の残存能力から社会貢献に繋がる活動を見つけ出し、発揮できるよう努めております。まだ参加は出来ていませんが、地域のゴミ拾い活動などに参加できるよう現在地域組合に施設として参加させていただけないか交渉中です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては現在往診としてファミリークリニック越谷に一括して依頼しております。ご家族から別の病院に頼みたいという意見は聞かれておりません。	定期による医療機関による往診、訪問看護事業者による支援などにより健康管理がなされている。また、機能訓練加算を取得しており、訓練計画の策定・専門職からの指導により機能維持に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	春日部ロイヤル訪問看護ステーションへ協力を依頼し、毎週1回訪問され情報を共有しております。体調不良のご入居者に対しては必要に応じて定期訪問をしてもらい対応してもらっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	オープン後3名の入院者がいました。内2名とは病院、家族とも連絡を取り合い症状の回復と共にスムーズに退院、再入居の段取りを取り組めました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期に差し掛かるご入居者は居ませんが、今後は看取りケアについてクリニックや看護ステーションと共にチームで話し合っていきたいと思います。	入居時には独自のシートを使用し、利用者の希望や緊急時の対応について聴取・記録し、家族への説明にあたっている。終末期の支援に取り組み、利用者・家族の要望に応えるケアを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを用いて職員が誰でも同じ対応が取れるよう努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練とBCP訓練を実践しております。一回は消防隊員を派遣要請し訓練の指導を受けております。	通報装置設置事業者と合同にて避難訓練が実施されている。また、地域の防災訓練に参加するなど地域との関係構築にも努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者一人ひとりを尊重し職員本位にならないよう常に声掛け、カンファレンスを実施しております。	関係性が近ければ近いほど接遇には配慮を要し、必要がある場合は距離や時間を考慮した支援に取り組んでいる。職員の安定が利用者の穏やかな生活に直結するものと理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位にならないように努め、ご入居者が自己決定できるよう待つことの大切さを共有できるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員不足により状況によってはご入居者の要望に応えられない場合があるが、いつできるか、どのくらい待ってもらうかを具体的に説明し理解を得られるよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅で使用されていた馴染の物を用意してもらっており、その人らしい服装や装飾を用いておしゃれを楽しんでもらっております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から味付け、盛り付けまでご入居者と共におこない楽しみをもって食事ができるよう努めております。	手作りの食事が提供されており、特に昼食についてはメニュー決め、食材の買い出しも利用者と一緒にできるよう配慮している。食事作りの風景に本ホームのグループホームらしさがあらわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の低下から栄養状態の悪いご入居者に対して、無理に介助したりはせず本人の食べたい物や飲み物を提供しストレスの無いよう摂取を促しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはご自分でできない方に対しては介助しているが、ご自分でおこなっても磨き残しがあるなどの際には一部介助をさせてもらい仕上げられるよう支援しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り自己排泄を促しております。オムツの方も一日一回はトイレに座ってもらい排便が出るよう腹圧をかけるなどの支援をしています。	利用者の自立度にあわせる・記録の確認により、トイレでの排泄つに努めている。特に移動・移乗時の事故防止に対して留意に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや、オリゴ糖摂取による下剤だけに頼らない排便コントロールに努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入りたい、というご入居者に対して現在毎日夕食後の19時にお湯を張りセッティングをすることでご自分で自由に入浴を楽しんでもらっております。	1階には機械浴槽を設置しており、利用者の重度化への対応を可能としている。利用者の気分や健康状態にあわせた入浴・柔軟な実施回数・機械浴槽への慣れ等々の配慮に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜だから寝てくださいということはせず、ご入居者にはご自分のタイミングで眠くなったら居室に戻ってもらい休んでいただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、ご入居者一人ひとりの処方についてなぜこの薬が出たのかを口頭または記録にて周知できるよう努めております。 現状職員が薬にたいして十分な知識があるとは言えませんが、今後も引き続き努めてまいります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や嗜好に合わせた楽しみ方ができるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候によって一日数分でも外に出られるよう努めております。	一日に一回は外出や散歩に出かけるよう努めている。また、季節の行事が楽しまれており、来年度は年度で一括しての行事計画立案を企図している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則施設での金銭の所持はお断りしていましたが、男性のご入居者がお金を持ちたいと訴えられることがあり、ご家族とも話し合い数千円をご自分で持ってもらい、買い物など外出の際には好きに使ってもらえるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話したい、という旨があれば連絡しお話ができるよう努めております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日一回ご入居者と共に掃除をおこない整理整頓に努めております。	ホームの庭には畑が整備されており、野菜の栽培などがなされている。廊下、脱衣場、トイレなどゆったりとしたスペースが確保されており、エレベーター、避難経路も考慮された設置がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者の要望によって食席を随時変更しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限りご自宅などで使用していた馴染のあるものを持参していただき、自宅と変わらない環境で安心して過ごせえるよう支援しております。	居室担当職員により居室の整理などがなされている。仏壇、テレビなどが家庭より持ちこまれており、ホームに備え付けの家具とあわせて利用者ごとの生活が送られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	頼まれたから手伝う、では無くその方一人ひとりのできることを把握しただけご自分の力でできるよう支援しております。		

(別紙4(2))

事業所名：グループホームいきいきの家越谷

目標達成計画

作成日：令和7年12月11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	2	地域との交流をより活発にするため、近隣の方々との対話や自治会の活動などに力を入れている。鎌倉ベーカリーさんが今年の9月を最後に閉店してしまい、毎月の交流がひとつ減ってしまい残念に思う。今後もより多くの社会参加に繋がられる交流に力を入れていきたい。	①訪問してくれるお店を探す。 ②グループホームでの催しに地域の方を呼ぶ。	①パン屋さんに限らず、キッチンカーなど、普段ご入居者が目にしづらい飲食物を提供してもらえる業者との関係を築く。 ②ご入居者の手作り品などでバザーを開き、近隣の方々と積極的な交流を図る。	6ヶ月
2	20	ご入居したての頃は友人などが面会に遊びに来られていた方もいたが、現在面会に来られる方はご家族がほとんど。グループホームで出会い、交流を持ち、訪ねてもらえる関係性を作ることにかかっている。	①毎月ご家族以外の方々にも気軽に訪ねて来てもらい、ご入居者と交流をしてもらう。 ②年に1回、近隣の方々へ出し物を催す。	①現在定期的なボランティアは毎月1回、傾聴ボランティアゆうゆうさんと有償ボランティアでピアノの先生に来てもらっている。その他にもボランティアさんを多く募り、グループホームを盛り上げてもらう。 ②出し物の催しは、初めは手軽なものをご入居者と共に準備し、地域貢献できるよう準備する。	6ヶ月
3					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。